

ハーマニー

R5. 12. 1(金) No.17 小柳弘志

さむ たいちょう 寒くなると体調が

ここ数日、寒い日が続いています。皆さん体調はいかがでしょう？これから2年生の修学旅行や3年生の入試に向けた仕事が続きますので、先生たちも体調管理をしっかりしなければと思っています。先日配付された「ほけんだより(いちじく)11月号」にも健康維持につながる興味深い記事が載っていました。見出しだけ紹介します。ぜひご家庭でも読まれてください。

- 【感染症シーズンがやってきます】→睡眠/栄養、手洗いうがい、換気、マスク
- 【登下校をいい機会に】……………→自力登校の勧め、いいこともいっぱい
- 【11/1 いい姿勢の日】……………→代謝が良くなる、集中力が上がる
- 【11/8 いい歯の日】……………→「8020運動」
- 【11/9 いい空気の日】……………→換気をしないと……
- 【11/10 いいトイレの日】……………→公共のトイレの使い方



がつ 12月になりました

今日から12月になりました。12月の主な行事を紹介します。

- 1日(金)：3年生 三者面談、1・2年生教育相談、九州中体連駅伝大会開会式(天草)
- 2日(土)：荒尾市人権フェスティバル(9:00~12:30 荒尾総合文化センター)※本校生徒の作品展示もあります。九州中体連駅伝競走大会(天草)※本校女子駅伝チームが参加します。
- 3日(日)：家庭の日(各月の第一日曜は家庭の日です。)
- 4日(月)：3年生 三者面談、1・2年生 教育相談
- 5日(火)：3年生 三者面談、1・2年生 県学力調査
- 6日(水)：フッ化物洗口
- 7日(木)：生徒会四役任命式、スクールカウンセラー来校日、ストレスマネジメント授業(3年生)
- 11日(月)：2年生 修学旅行(~13日まで)
- 13日(水)：フッ化物洗口
- 14日(木)：16日(土)の振替休業日(お休み)
- 15日(金)：2年生 給食後下校
- 16日(土)：土曜日授業 PTA教育講演会(午後)お弁当
- 19日(火)：げんチャレ、スマホ・携帯安全教室
- 20日(水)：フッ化物洗口、専門委員会
- 21日(木)：スクールカウンセラー来校日、避難訓練
- 22日(金)：冬休み前集会、生徒会認証式、ワックスがけ(放課後)
- 25日(月)：冬の街頭指導



あらおしじんけんどうわきょういくじょうけんきょうかい 荒尾市人権同和教育授業研究会

11月8日、16日に今年度は府本小、
万田小、荒尾第三中、岱志高校の4校を

会場として荒尾市の先生方が集まって、部落差別をはじめ、さまざまな差別をなくすための授業作りや集団づくりについて研究を行いました。本校では1年生「山の粥」、2年生「奨学金をなくさないで」、3年生「統一応募用紙」を教材として授業を行いました。集団生活では良い事もありますが、トラブルも起きます。トラブルが起きた時に人権の視点がしっかり身についていると解決につながります。授業後の研究会では貴重なアドバイスをいただきました。これからの仲間づくりに生かしていきます。



第41回全国中学生人権作文コンテスト入賞作文 「決断」 沖縄県宮古島市西辺中学校3年生の作品

「気づき、考え行動する力」を鍛えよう

人権なんてもの、この世に存在するのだろうか。長い間ずっと考えてきた。小学校一年生の頃から、私は明らかなじめにあっていた。「死ぬ」「お前なんかいない方がいい」そんな言葉を聞くのは日常茶飯事だったし、怪我を負わされることも当たり前であった。先生や当事者同士の親を交えて話し合いをしても、母がクラス替えを頼み込んでも、容赦ないじめは大人の目の届かないところで姑息に続けられ、徐々にエスカレートした。幼い私は「辛いのは私だけじゃない、もっと酷い事をされている人が世の中には沢山いるんだ」そんなことを考えて、日々繰り返される攻撃から自分を守っていた。

大人の言う「辛いことがあればなんでも相談しなさい」なんて全くの綺麗事だと思ったし、人間が全員平等に生きられる世界なんてあるわけないと、そう思わないと毎日耐えることができなかった。

小学校四年生のある日、一面に「死ぬ」と書かれた四枚の紙が私の机の上に置かれていたことがあった。そのひとつひとつ別の人が書いたようで、私が泣いている横でそいつらはクスクスと笑い合っていた。張り詰めていた何かが切れたような気がして、この時私は「逃げる」ことを決めたのである。幸いなことに母が転校を許してくれ、更に様々な機関に掛け合ってくれたことであの苦しくてたまらなかった日常に一旦の終止符が打たれた。

逃げるという行為は、時に負けだとか、怠惰だとか、そういうふうに捉えられがちだ。しかし、学校から逃げる。人との関わりから逃げる。この選択は私を繰り返される物理的な痛みから解放してくれたし、日々感じていた生きることに對する絶望からすくい上げてくれた。逃げたことで、明らかに私の人生は前よりずっと明るいものになったと感じている。だから私は誰がどんなに否定しようとも自分のした選択を100パーセント認めてあげたい。あの時下した決断、そして周りに何を言われてもその決断を許してくれた母のお陰で私は今を生きることができているのだと思う。

一四歳になった今も私は、当時のいじめからくる恐怖から逃げ続けている。いじめられさえしなければ、私も普通に学校に通えたのだろうか。いわゆる「青春」の時間を笑って過ごすことができたのだろうか。たまにそんなことを考えるけれど、あの時学校から逃げたことで学校にいるみんなとは違った経験ができていたことも確かだ。大好きなピアノや絵画の時間を好きな時にとれる。普段なら関わりのなかったコミュニティの方たちとの繋がりもできた。すべてあの時学校から逃げる選択をして、その決断を許してもらえてこそその経験たちである。逃げたことで変わろうと思えたきっかけもできた。初めて会う人に自分から挨拶をする。自己紹介してみる。小さいかもしれないけれど、私の中では前進のための大きな一歩だ。

そして、改めて人権を考えたとき、もしこの世に人権というものがあるとすれば、それはひとりひとりのより良い未来のための選択がどこかに受け入れられることではないかと思う。痛みを耐えるだけが美德ではないと私は心から訴えたい。

私をいじめた人達の心はどこか寂しかったのだろうか。家庭で何かあったのかな、友達がなくなるのが怖くて、自分がいじめられるのが怖くて、私に刃を向けてきたのかな。そんな事を今になって思う。

いじめは決して許されることではないし、他人に自分のストレスをぶつけていいはずない。ただ、今、その子たちの心の中にあつた暗い部分に触れられるとしたら、私をいじめなくてもそこから逃げられる逃げ道と一緒に見つけられるのではないかと思う。母がそうしてくれたように、その子なりの逃げ道を私は認めてあげられるのではないかと思う。

今の私の夢は、誰かの逃げ道を作れる人になること。母がしてくれたように、その人の選択を受け入れられる人になることだ。夢を叶えるために、法律を学びたい。その人がその人らしく生きられる道と一緒に探すことができるように、私は世の中の仕組みを知って、それを生かせる仕事につきたいと考えている。

来年の春から、私は高校生になる。学校から逃げ続けている私は、三月、全日制の普通高校を受験するつもりだ。とても怖いけど、頑張りたい。高校生活の中でたくさん選択の機会があるだろう。逃げたいと思うこともたくさんあるだろう。けれど今、頑張れる気がしている。私には私の決断を最大限信じてくれる母がいる。そして私は、私が私らしく生きるための権利を確かに有しているのだから。